



陶芸家(みはる窯)  
神崎 継春氏



## 信楽焼

信楽焼は、自然豊かな信楽の地で採れる良質でたくましい陶土を使って、浴槽や水がめのような大きい物から茶器や徳利のような小さい物まで、多種多様な作品を作り出すことができます。最大の特長は、信楽特有の土と窯での焼成過程により生み出される暖かい緋色※1と自然釉※2の味わい。長きにわたって日本中から愛される、滋賀県が誇る伝統工芸品の一つです。

# OPTEX GROUP REPORT

2021年度 第2四半期  
2021年1月1日～2021年6月30日

※1 緋色(ひいろ): やや黄味の赤色。信楽では「火色」と呼ばれている。 ※2 自然釉(しぜんゆう): 窯の中で、灰が陶土に含まれる長石と溶け合い、ガラス化したもの。

# 国内外での事業環境の回復を受け全事業で増収・増益を達成しました。



オプテックスグループ株式会社  
代表取締役社長兼CEO

小國 勇

## 上半期の総括と通期見通し

当期(2021年12月期)上半期は、前年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大(以下、コロナ禍)の影響は一部残っているものの、ワクチン接種の普及を背景に各国の社会・経済活動が回復しました。SS(センシングソリューション)事業の防犯・自動ドア関連においては欧米市場を中心に市況が回復したことで販売も拡大しました。また、IA(インダストリアルオートメーション)事業のFA関連やMVL関連においても、中国・アジア市場を中心に各種製造業の設備投資が予想を上回る水準で活発化したことから、当社製品の販売も好調に推移しました。

上記のような事業環境の好転に加えて、前期に当社グループに加わったサンリツオートメーション(株)による収益への寄与もあり、上半期のグループ連結売上高は227億50百万円(前年同期比36.7%増)の大幅増収となりました。利益面についても、増収効果に加えて高収益製品の販売が好調に推移した

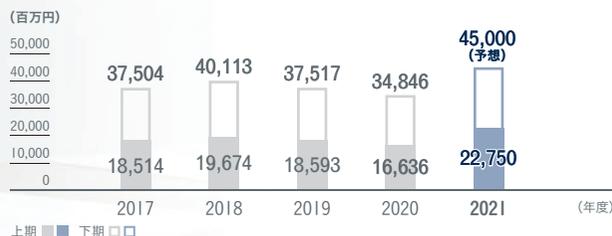
ことにより、営業利益は25億20百万円(同221.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は19億21百万円(同227.7%増)といずれも大幅増益となりました。

なお、当期より報告セグメントの区分を変更し、従来の「FA事業」と「MVL事業」にサンリツオートメーションの事業を合わせて、「IA事業」に集約いたしました。よって、今後の主軸となるセグメントは「SS事業」と「IA事業」になります(3ページ参照)。

現状では売上・利益ともコロナ禍前を上回る水準で推移しており、下半期についてもSS事業及びIA事業の販売は堅調な拡大が見込まれます。ただ一方で、製品製造に使用する半導体等の電子部品の調達難や、新型コロナウイルスの変異種による影響拡大など、今後の見通しに不透明感も残っていることから、通期の売上高については450億円、営業利益は45億円、親会社株主に帰属する当期純利益は33億50百万円をそれぞれ見込んでいます。

## 業績推移(連結)

### 売上高



### 営業利益/売上高営業利益率(通期)



## 中長期の展望

当社グループは中期経営計画(以下、中計)に沿った成長戦略を推進しています。今中計での基本方針は、ポストコロナ時代における社会やニーズの変化を的確に捉えつつ「各事業分野におけるビジネスモデルの変革」に挑戦していくことです。SS事業では従来のセンサー販売主体の「モノ売り」からお客様の課題を解決する「ソリューション提供型事業(=コト売り)への転換、FA関連においては高付加価値製品の強化による成長、MVL関連では「トータルソリューションベンダー」への変革をそれぞれ目指していきます。

上述のように業績面では各事業とも計画を上回る数字を上げ、好スタートを切ることができましたが、もう一つ、今中計期間での重要課題として私が意識していることがあります。それが「グループ経営の強化」です。

前年度はサンリツオートメイションがグループに新たに加わりましたが、それ以前から当社グループは積極的なM&A戦略を推進しており、グループの企業数はこの数年間で増加しています。そして、さらなる成長に向けて今後も増えていく

ことが考えられます。そうしたなかで「全体最適」を見据えつつ持続的な成長を実現していくためには、グループ経営のあり方をあらためて見直し、最適な機能の分担・配置や組織体制を明確化していく必要があります。

当社グループは2017年に持株会社体制に移行しましたが、これまでは各事業の成長戦略や、設備投資・M&Aを含む資金管理については、主に各事業会社が個別に立案から実行までを行ってきました。当期からは、戦略企画機能やM&A、資金調達と配分を担う財務機能(キャッシュ・マネジメント)などについては持株会社である当社に集約します。

将来的には人事・経理・総務・法務などの間接業務を標準化し、当社に集約する「シェアードサービス」型の体制を導入したいと考えています。これによって間接部門の業務効率化と、人材を含むグループ全体の経営資源の効率的活用につなげるとともに、各事業会社がソリューションの企画・開発、提案などの「本業」に専念できる環境を整えることで、成長戦略をより強力に実践していきます。

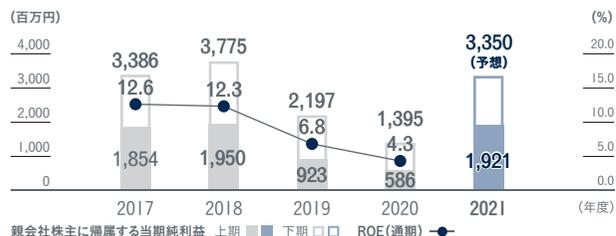
## 株主・投資家の皆様へのメッセージ

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けています。株主配当については、利益状況に応じた成果の配分を基本に、配当性向30%を目処としつつも経営基盤の強化を考慮し、安定配当とのバランスを勘案しながら決定しています。当期の株主配当については、前期同様、中間配当金を一株当たり15円、期末配当金についても15円の合計30円で実施する予定です。

なお、当社グループは、2022年4月から東証が再編を行う新市場区分において、「プライム市場」への上場維持基準に適合するととの第一次判定結果を受けています。この結果に基づき、新市場区分の選択申請に係る所定の手続きを進めていきます。

今後も皆様への高い利益還元を実行できるよう、企業価値のさらなる向上に取り組んでいきます。引き続き当社グループへの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

親会社株主に帰属する当期純利益/ROE(通期)



配当金\*1/配当性向(通期)



※1 2018年4月1日付で株式分割(1:2)を行っております。2017年度の配当金については当該株式分割を考慮した数値に換算して記載しております。

※2 創立40周年記念配当2.5円を含んでおります。

# GROUP NEWS

## 1 主要セグメントの分類を変更、 2つの事業を両輪として成長を加速させます。

サンリツオートメーション(株)の子会社化に伴い、主要セグメントの分類を変更しました。景気動向の影響を受けにくく比較的安定している「SS(センシングソリューション)事業」と、ものづくりの発展に連動する「IA(インダストリアルオートメーション)事業」の2つを、グループ全体の事業推進の主軸としています。

バランスの取れたビジネスモデルにより、今後も安定的かつ飛躍的な成長を目指します。



## 2 グループ全体のものづくりを強化します。

### オプテックス・エムエフジーとシーシーエスが同一拠点に

2021年3月より、グループの製造を統括するオプテックス・エムエフジーと、シーシーエスの技術・研究開発部門、生産部門、品質保証部門が同一拠点に移転しました。

オプテックス・エムエフジーは量産品、シーシーエスは特注品という両社の生産特性の違いを活かし、互いのノウハウを学び合うことで生産力を高め、「量産品でも個別対応が可能」「特注品でも迅速対応が可能」を実現できるよう、グループ全体のものづくり体制の強化を目指していきます。



### 研究開発から製品化、量産、品質保証まで一貫した体制を構築

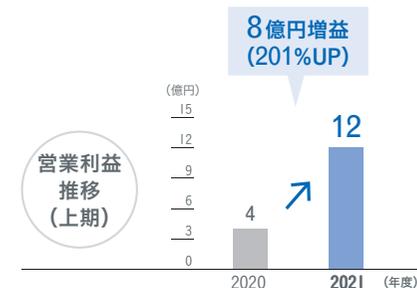
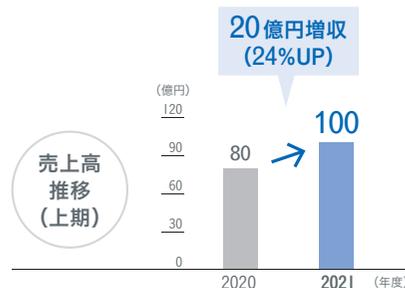
シーシーエスの技術・研究開発部門、生産部門に加え、従来は別拠点だった品質保証部門を同じ拠点に移し、業務プロセスの連携強化、業務効率の改善を進めていきます。各部門間での情報共有がより円滑にできるようになることで設計や製造の迅速化が期待でき、お客様の多様なニーズに対して素早く対応ができると考えています。



# SS 事業

センシングソリューション

安全・安心・快適な社会に貢献



## オプテックス株式会社 (防犯・自動ドアセンサー関連)

### コロナ禍からの市況回復が進み大幅な増収・増益となりました。

当期(2021年12月期)上半期は、防犯関連では欧米市場を中心に前年度のコロナ禍の影響による落ち込みから市況が回復し、さらに新製品・ソリューションの立ち上げによる販売増も加わったことで売上が大きく増加しました。また自動ドア関連においても、国内やアジアでは依然としてコロナ禍の影響が続いているものの、欧米での市況回復が進んだことで売上高は前年同期実績を上回りました。

下半期の見通しについては、欧米市場の市況回復は今後も継続することが見込まれることから、防犯関連・自動ドア関連ともに上期と同様に業績を回復できると予測しています。また、次のコア事業として取り組んでいる「水質計測関連」や「車両検知関連」についても堅調に業績を伸ばせると見込んでいます。一方で、世界的な部品不足や物流の混乱状況は依然として続いており、年内には解消が見込めないため、これらによる工場の稼働率低下、部品・物流のコストアップなどへの対応を引き続き進めていきます。

コロナ禍収束後の社会においては、人々の生活様式の変化によって各種の業務やサービスの非接触化・リモート化・省人化がさらに加速していくと考えています。

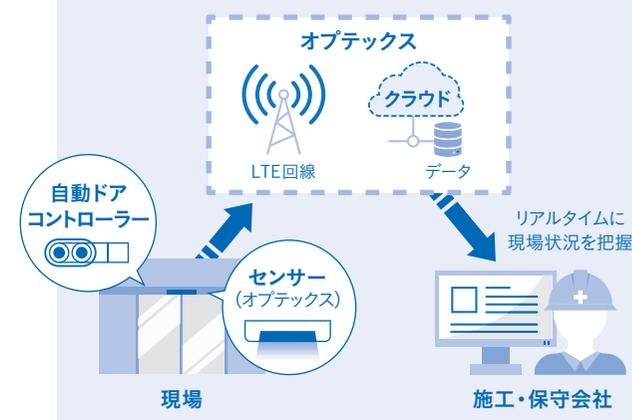
SS事業は、まさにそうした社会の需要を満たすソリューション開発・提供を進めており、中長期方針として掲げる「モノ売り」ビジネスから「コト売り」ビジネス(ソリューション販売)への転換を今後も推進していくことで継続的な成長を目指していきます。防犯関連では、カメラ付き屋外用センサーのラインアップ拡充と、既存機械警備システムに容易に後付けできる「画像確認ソリューション」を世界展開します。また自動ドア関連では、自動ドア遠隔モニタリングサービスや、日本全国に設置されている自動ドアセンサーの位置情報を活用した情報シェアリングサービス「OMNICITY(オムニシティ)」を展開し、継続収入型ビジネスを推進していきます。

## TOPICS

### トピックス

#### 自動ドア遠隔モニタリングサービス

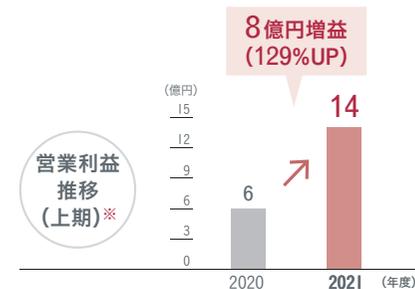
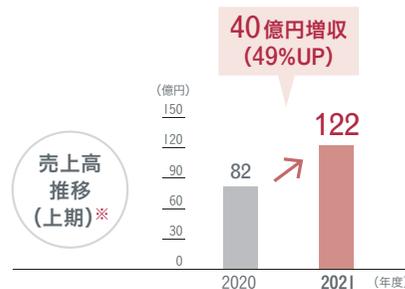
自動ドアコントローラーやセンサーなどの接続機器の稼働状態、開閉回数などのデータを取得し、異常や故障をリアルタイムに監視できる国内初のモニタリングサービスを開始しました。現場の状況を遠隔で把握できるため、自動ドアの保守点検の効率化や安全な稼働の維持に貢献します。



# IA 事業

インダストリアルオートメーション

工場の生産や検査の自動化に貢献



## オプテックス・エフエー株式会社 (工場用センサー関連)

### 設備投資の活発化により国内・海外とも好調に推移しました。

当期(2021年12月期)上半期は、前年度に引き続きコロナ禍による営業活動の抑制等の影響はあったものの、顧客の生産・設備投資の回復に伴い、国内・海外ともに販売は好調に推移しました。特に中国市場では各種製造業の設備投資需要が活発化し、光電センサー、変位センサーを中心に売上が急伸びしました。これらの結果、売上高・営業利益ともに大幅な増収・増益となりました。

下半期もコロナ禍の影響は一部残るものの、市況は堅調に推移すると予想しています。国内市場では食品業界向けの印字検査用画像センサーや、設備の予知保全<sup>※1</sup>に役立つ高機能IO-Link<sup>※2</sup>マスターなどの拡販に注力し、収益改善と顧客拡大を目指します。また中国市場では、電気・電子部品関連の需要が堅調に推移すると予想しており、超高精度変位センサーなどの拡販で、売上拡大を図ります。

「省人化・自動化」に対する生産工場のニーズは今後も高まると予想しています。そうしたなか、中長期の成長戦略として、需要が拡大する「超高精度変位センサー」「非接触エリア温度計」のラインアップ拡充、生産現場での機器の予知保全ニーズに応えるIO-Link対応機器の開発、各種フィールドネットワークの対応など、成長が期待できる分野への開発投資を引き続き強化

していく方針です。また「中食」<sup>※3</sup>市場の拡大にともない、賞味・消費期限などの印字検査の自動化需要も増加していることから「印字検査ビジネス」についても一層の強化を図っていきます。

- ※1 予知保全：設備管理・保全の方式の一つ。設備を診断し、性能の低下や劣化状況をもとに保全活動を行うこと。
- ※2 IO-Link：センサーと制御システムの間で各種データ交換を行う通信技術のこと。設備の予知保全等に役立つ。
- ※3 中食(なかしょく)：家庭以外で調理された食品を持ち帰り、家で食べること。

### トピックス

#### 新製品「照明モニタリングセンサー MDF-Aシリーズ」

画像処理用照明等の光量を監視できる当社独自のセンサーです。ファイバユニット<sup>※</sup>で受光した照明の明るさをファイバアンプでアナログ変換して数値化が可能。光量変化のモニタリングや数値での「見える化」など明るさの管理を実現し、画像検査における予知保全ニーズに幅広く対応します。

※ 小型センサーヘッドを備えたファイバケーブル。

MDF-Aシリーズ

## シーシーエス株式会社 (画像検査用LED照明)

### 海外市場の需要回復により大幅

当期(2021年12月期)上半期は、国内市場・海外市場ともに前年度から続くコロナ禍の影響は残ったものの、中国市場と米国市場を中心に半導体をはじめとする電子部品関係の設備投資が活発化したことにより、特に海外での売上が拡大しました。この結果、上半期の売上高は増収となりました。利益面についても、生産拠点の移転などのコストアップ要因はあったものの、全般的にコスト抑制に努めた結果、大幅増益となりました。

下半期も半導体関連投資を中心に旺盛な設備投資が続くことが見込まれますが、一方で、世界的に半導体等の電子部品の不足が深刻化しており、加えて新型コロナウイルスの変異種による影響拡大も懸念されることから市場環境は不透明な状況が続くと予想されます。

各種製造業では、特に検査工程に関わる労働人口の減少が大きな問題となっているなか、当社では引き続き「AIの活用」も含めた外観検査ソリューションの技術開発と提案力の強化に取り組んでいきます。また2021年1月には欧州におけるグループ連携を統括し、競争力を最大化することを目的に、欧州統括会社(CCS Europe Holding B.V.)を設立して

※ サンリツオートメーションは2021年度より連結対象です。

関連)

## な増収・増益を達成しました。

おり、今後は欧州のグループ企業で製品を相互に取り扱い、顧客対応スピードを加速することで欧州におけるトータルソリューションの提案強化を進めていきます。

## TOPICS トピックス

### 各部門の拠点集約で特注品の設計・製造を迅速化

2021年5月、技術・研究開発部門、生産部門に加えてこれまで別拠点にあった品質保証部門も同一拠点に移転しました。情報共有の強化により、出荷台数の約5割を占める特注品の設計や製造の迅速化を実現し、多様化が進む顧客ニーズへの対応を進めていきます(3ページ参照)。



設計者と組立員

## サンリツオートメーション株式会社 (産業用コンピュータ関連)

## 旺盛な需要に応じて計画を上回る実績となりました。

当期(2021年12月期)上半期は、コロナ禍による顧客プロジェクトの進捗遅れの影響があったものの、半導体製造装置メーカー向けの組み込みボードの販売が大きく伸びたことにより全体の業績を牽引しました。また、社会インフラシステム(高速道路料金収受システムなど)の出荷も堅調に推移したことから、計画を大きく上回る売上高を達成しました。

半導体関連の需要は引き続き旺盛であり、下半期も半導体製造装置メーカーからの受注は高い水準で推移すると見込まれます。一方、ICチップを中心とした部品入手難の影響が出ており、当社だけでなく顧客である半導体製造装置メーカーにおいてもリスクが残ります。全社員一丸となって市況の追い風をしっかりと受け止め、さらなる成長に弾みをつけていきたいと考えています。

中長期の展開としては、半導体製造装置向けのビジネスは需要の変動幅が大きいことから、売上の依存度を一定レベルまでに留め、新たな分野のビジネスを伸ばしていく必要があると考えています。グループ各社とのシナジー創出による監視カメラを中心としたセキュリティ分野の拡大や、医療関連機器の開発、ロボット開発、さらに長期的には宇宙

分野での組み込みコンピュータ機器など、当社の強みである信頼性と高性能を活かした分野での成長拡大を目指していきます。

## TOPICS トピックス

### 「創立50周年」を機に新たな挑戦を

2021年3月、サンリツオートメーションは創立50周年を迎えました。「50周年特設サイト」を設け、トップメッセージやこれまでの様々な取り組みを紹介しています。また、働き方改革の実践の場となる新社屋の建設にも着手しています。



50周年特設サイト

<https://www.sanritz.co.jp/style/>





## 信楽焼

日本の陶器を代表する信楽焼を、約50年にわたって伝承してきた陶芸家の神崎継春氏を訪ねました。1,000年以上前から日本全国の人々に愛用されている信楽焼は、伝統を継承しながらも時代の流れとともに変化を遂げてきました。当社グループも、創業当時から大切にしてきた企業理念を守りながら、新たなことに挑戦して成長することで、株主の皆様から愛される企業になれるようにこれからも努めてまいります。



取締役相談役(創業者)  
小林 徹

### 中間決算説明会アーカイブ動画



今期の中間決算概要、中長期経営戦略について社長の小國がご説明しています。ぜひご覧ください。

[https://www.bridge-salon.jp/streaming/movie/6914\\_20210810.html](https://www.bridge-salon.jp/streaming/movie/6914_20210810.html)

### IRメール配信



最新のニュースリリース等のIR情報をお受け取りいただけます。

<https://www.optexgroup.co.jp/shareholder/ir-mail.html>

### 株式の状況 (2021年6月30日現在)

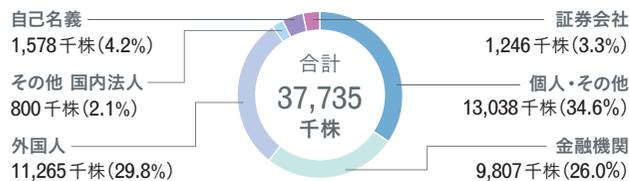
発行可能株式総数 100,000,000株  
発行済株式の総数 37,735,784株  
株主数 7,730名

#### 大株主

株主名	持株数(千株)	比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,984	8.25
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	2,228	6.16
有本 達也	1,910	5.28
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	1,756	4.85
小林 徹	1,194	3.30
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口9)	1,073	2.96
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051	817	2.26
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025	745	2.06
栗田 克俊	720	1.99
THE CHASE MANHATTAN BANK 385013	695	1.92

注1) 当社は、自己株式を1,578,320株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
注2) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

#### 所有者別株式数分布状況



### 株式メモ

事業年度 毎年1月1日から同年12月31日  
定時株主総会 毎年3月  
配当基準日 期末12月31日  
中間 6月30日  
(その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めます。)  
I単元の株式数 100株  
公告方法 電子公告により行う  
公告掲載URL <https://www.optexgroup.co.jp>  
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
TEL: (0120)094-777(通話料無料)

#### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求及び買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

### 会社概要 (2021年6月30日現在)

会社名 オプテックスグループ株式会社  
設立 1979年5月25日  
資本金 27億9,827万円  
決算期 12月  
従業員数 2,199人(連結)、22人(単体)  
本社所在地 〒520-0801 滋賀県大津市におの浜4-7-5

### 役員一覧 (2021年6月30日現在)

代表取締役社長 兼 CEO 小國 勇  
取締役 兼 CFO 大西 浩之  
取締役(戦略担当) 東 晃  
取締役相談役 小林 徹  
取締役 上村 透  
取締役 中島 達也  
社外取締役 吉田 和弘  
社外取締役 青野 奈々子  
取締役 監査等委員 黒田 由紀男  
社外取締役 監査等委員 酒見 康史  
社外取締役 監査等委員 木田 稔